

生涯學習情報誌

Life Learning

3 2021
Mar.
NO.367



生涯學習開發財団

財団の事業を運営する理事会を紹介します

一般財団法人生涯学習開発財団のすべての事業は、理事会によって決定、執行されています。

理事、監事は別途定めた評議委員会によって選任・解任されます。

写真は2020年10月29日の理事会の様子です。

新型コロナ対策の一環として、インターネットを活用したテレビ会議も導入しています。

理事

倉山 羽衣子

(楽天株式会社 新サービス開発本部投資戦略部/元アクセンチュア株式会社 経営戦略本部 コンサルタント)

理事 (事務局長)

佐藤 梨奈

(一般社団法人 日本南東欧経済交流協会 理事)

理事

日野 晋

(株式会社デジタルイメー ジ取締役/元国土交通省 都市・地域整備局 大都市圏整備課長)

理事

富田 育男

(一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会 元専務理事/元通商産業省 工業技術院標準審議官)
*瑞宝小綬章受賞 (2020年秋)

代表理事(理事長)

横川 浩

(公益財団法人 日本陸上競技連盟会長/一般社団法人 電気自動車普及協会 会長/元通商産業省 生活産業局長)



滝日 徹

(公認会計士)

理事

亀井 久興

(一般社団法人 通信研究会 会長/元国土庁長官)
*旭日大綬章受賞 (2013年秋)

監事

秋田 瑞枝

(弁護士 <第二東京弁護士会所属> ひのき総合法律事務所)

理事

フィリップ・オステン

(慶応義塾大学 法学部 教授 <国際刑事法>)
*テレビ会議参加

監事

佐々木 茂夫

(株式会社ファミリ工房 代表取締役)
*テレビ会議参加

鬼の学び ⑫

作家／出版プロデューサー／劇団主宰

鬼塚忠のアンテナエッセイ

本日は、大手企業に派遣から入り、たった10年間でグループ会社役員にまで上り詰め、その経緯を、最近、ダイヤモンド社より『派遣で入った僕が、34歳で巨大グループ企業の役員になった小さな成功法則』を上梓した二宮英樹さんにお越しいただきました。

鬼塚 こんにちは。二宮さんは、24歳で大塚製薬に派遣として潜り込み、その後わずか10年間で、大塚グループの会社の執行役員にまで駆け上がり、その後あっさり退職し、独立したとのことですが、にわか信じられない話です。本当ですよ。

二宮英樹
株式会社オリエント代表、サイバーセキュリティ、デジタル化推進支援、事業開発コンサルティング



●『派遣で入った僕が、34歳で巨大グループ企業の役員になった小さな成功法則』(ダイヤモンド社)



学びは自分を元気にしてくれる

二宮 もちろん本当です。

ヘルプデスクからのスタートでした。少し英語が出来たところから、海外とのコミュニケーションを担当しました。仕事ぶりが認められ、数ヶ月のうちに契約社員のオファーを頂きました。そこから、仕事を通じて世界中の1Tスキルの高いエンジニアとチームを作り、様々な課題に取り組みました。一ツ波を超えると、もっと大きな波が来るように、次から次へと仕事をこなしていきました。経験を積むには最高の職場でした。4年後に28歳でホールディングス兼任となるチャンスが巡って来ました。32歳で社員になり、1T推進室の室長補佐になりました。34歳の時にグループのサプライチェーン上の課題解決の為に、大塚倉庫の執行役員1T統括部長に着任して、30年来のレガシー問題に取り組みました。3年かかりましたが問題を解決して、その後1年間のシステム稼働を見届け、問題のないことを確認してから38歳で独立しました。

仕事が速いと楽しそうに見える

鬼塚 まるで新幹線の車窓から在来線を見るようなスピードで駆け上がっていますが、その出世の秘密はなんでしょうか？

二宮 ひとえに、サポートデスクとして、多くの人の役に立つたことに尽きると思います。心がけたことは、どのような課題であっても、全力で相手にとって一番ベストな解決策を、「超高速」で届けるよう努めたことです。仕事が速くて、結果的に相手の期待値を超えていけば、どんな相手からも感謝され、次からもご指名頂けるようになります。みんな問題が解決されただけであって、解決方法はあまり問われません。自分の勝手な思いで、時間をかけて策を練っても、遅ければ、全く喜ばれることはありません。スピードは量を捌

くことを可能にし、その量は結果的に品質を押し上げます。仕事上の信頼は、結果の積み上げでしかなく、積み上げていかなければ、信頼も得られないと思います。下手なことをすると、長年かけた信頼は一瞬で崩れてしまいます。

鬼塚 何が二宮さんをそうさせたのでしょうか？

二宮 特に動機はありません。動機は思いつきませんが、仕事のコツはリズムだと思います。次から次に相談事が来ても、パンパンと歯切れ良く仕事を消化できると、気持ち良く感じます。気分がいいと他の人からは仕事を楽しそうに見えるようです。誰も暗い人より明るい人の方が仕事を頼みたいと思うし、楽しそうなお人の方と話したいと思うのと同じだと思います。そういうリズムの循環を作って気持ち良くなった経験……についてはその結果みんなに頼まれて、うまくできて、楽しくなつての成功体験があったからこそ、仕事のスピードアップや効率化に大変大きなモチベーションが湧いてきていたのだと思います。一方、人に効率化求められても、全くモチベーション上がらないのと同じように、やっぱり自分がやる気になれないと、何をやっても、気が入らないし、リズムも出ないし、うまくいかないと思います。

変わりたいなら外部の人や知識に触れよう

鬼塚 二宮さんは、1T知識とが、特に大学とかで学んだわけではなく、自分で仕事をしながら、あるいは試用錯誤して独学のような形で学んだそうですが、ひとは忙しいと学ぶというより、業務をこなすことに必死になりがちですが、どうでしょうか？

二宮 日本人はちょっと他民族より責任感が強すぎて、与えられた仕事をこなすことに必死になってしまいがちです。



多くの人は学ぶことの優先順位を下げてしまっているだけのように思います。そういうことを続けても、何も目新しい気つきはありませんし、そもそもそういう仕事はつまらない。自然と視野を狭くしていくだけです。

世の中には、驚くべき最新技術や革新的な取り組みをしている人達がいます。そういうものは、通常、組織の外にあります。日本人は、本質的に、より良いものを取り入れて、自分の血肉に変えることができることは、歴史が証明しています。明治維新や戦後の高度経済成長初期の日本人はみんなやっつけて来たことだと思えます。私たちのDNAにはそういったものが備わっています。そのために、常に、外からいろんな学びを得て、取り入れることが重要です。これができないのは、だいたい無意識の習慣にハマっているだけなので、本当に変わりたいと思うなら、休んだり、外部の人間や知識に触れ、リフレッシュし、自分を強制的に切り替えていく必要だと思います。

● 著者プロフィール

鬼塚忠(おにつか ただし) 1965年鹿児島市生まれ。鹿児島大学卒業。大学卒業後、2年間かけて、アジア・オセアニア、中近東、アフリカ、ヨーロッパなど世界40か国を放浪。ヨーロッパでお金が底をつき、シベリア鉄道で帰国。帰国時、所持金は1万円を切っていた。1997年より2001年6月まで海外書籍の版權エージェント会社「イングリッシュ・エージェンシー」に勤務。映画の原作、ビジネス書、スポーツ関連書籍など年間60点ほどの翻訳書籍を手掛ける。次に海外の作家ではなく、日本人作家のエージェントをしたいと思い、2001年10月にアップルシード・エージェンシーを設立。現在では作家のエージェント会社の経営者であるとともに、作家、脚本家、劇団もしも主宰でもある。

著書:『風の色』(講談社)2018年映画化。『花戦さ』(角川書店)2017年映画化。日本アカデミー賞優秀作品賞受賞。『Little DJ』(ポプラ社)2007年映画化。『カルテット!』(河出書房新社)2012年映画化。『海峡を渡るバイオリン』(河出書房新社)2004年フジテレビ45周年記念ドラマ化。文化庁芸術祭優秀賞受賞。『恋文讃歌』(河出書房新社)、『僕たちのプレイボール』(幻冬舎)2012年映画化など多数。



鬼塚 それは仕事に生かすことありきで学んでいるのですか？

二宮 仕事に生かすことを考えるとスキルや知識に関心が行きがちです。仕事に生かすことだけを勉強するなら、おそらくそれでは作業員止まりです。組織や世の中は人の関係によって構成されています。何よりも人との関係が重要です。よく見てください。経営者の方々は、全てのスキルを備えたリーダーですか？ 色んな人と巧みにコミュニケーションをとる、問題を解決する能力がある人が多いのではないのでしょうか。有能なリーダーになりたいならば、専門のことはかり学ばより、1つか2つの専門性に加え、日常的に会話する哲学的な話、最新情報、歴史、地政学、経済やファイナンス、そういった幅広いことに興味を持ったほうがいい。そうすると色んな人と会話する際に、共通の関心事を持つことができ、年齢や立場を超えて、仲良くなれます。色んな人と仲良くなれたら、その人たちの力を借りることができるので、結果的に、大きな仕事の課題に取り組みるときに、自分一人ではできないことも、知恵や力を貸してくれることにつながります。これは仕事に限らず、生きていく上でとても大切なことだと思えます。

知恵は経験が重なって初めて血肉になる

鬼塚 学び始めるのに、学力とか年齢は関係していますか？

二宮 基本的には関係ないと思います。ただ、20代の体力のある時代で、家族や守るものが少ない時に、思い切ったガムシヤフに働いたり、没頭したり、突き詰めたりする行動をとれた方が、より大きな成長の糧を得られることは間違いないです。僕は20代は年間370冊のビジネス書を読み漁って、色んな知恵を蓄えました。初めは人脈も何もありませんが、色んなことを知っていると、生きてく中で、「ああ、これがそういうことかー」というふうに気づくことがたくさん出てきます。知恵は経験が重なって初めて自分の血肉になります。いろんな経験があればあるほど、人は深みが出てくるので、話のネタも増えますから、そのあとより多くの人に興味を持つてもらえるようになると思います。そういう意味では、早ければ早い方が有利であると思いますが、いつからでも初められることには変わりないのではないかと思います。

鬼塚 では最後に、これは生涯学習をテーマにする情報誌なので、その読者に学びとは何か、を短く何かアドバイスしていただけませんか？

二宮 学びとは、学んだことを活かして経験することです。自分を元気にしてくれるものだと思います。ただし、知識を貯めたり研究したりするばかりでは、何も生まれませんし、狙って学んだものは、試験にしか役立たないと思います。勉強するだけで成功するのなら、今頃世界は成功者で溢れ、大金持ちばかりだと思います。自ら行動し、汗をかいて経験することが何よりも大事です。何かに取り組んでいけば、学んだ知恵が役立つときはきつと現れます。そして、あるとき関心事が重なり合う仲間を見つけたとき、とても話題を共有できると思います。そうやって楽しい経験を重ねていけば、仲間に出会い、人生が有意義になり、よりもっといろんな経験や学びをしたいという欲求が変わるのではないかと思います。

鬼塚 学びのある話でした。本日はありがとうございました。